

GRIPS 開発フォーラム PFM 関連 外部ネットワーク活動

「サブサハラ・アフリカにおける PRSP の政策実施を支える政府制度の現状と支援アプローチを考える会 ～ 財政管理(Public Financial Management)を中心として」

1. 背景

(1) サブサハラ・アフリカにおける「行財政制度」の重要性の再認識

サブサハラ・アフリカ諸国は行財政政府の財政管理(Public Financial Management、以下 PFM)、政策策定を中心とした政策実施・管理能力が不足していたため、政策文書の中身と政策実施の結果が分離するような状況が続いている。同時にそのことは援助吸収能力が欠如していることも意味し、能力的にも財政的にも日本の援助哲学である「自助努力」が期待できず、プロジェクト、技協を中心とする支援が効果的に課題解決に帰結してこなかった可能性がある。同諸国において主流化した PRSP プロセスもその基盤には上記と同様の弱点を抱えたままであり、「政策実行の基盤軸」としての「行財政制度の強化」に真剣にかつ効果的に取り組んでいかない限りは、PRSP、セクタープログラムも貧困削減に向けての効果的なアウトプットを提供できない事態になる。

(2) 内生的制度と外生的制度のマッチング

現在、同諸国はこの行財政制度の改革、強化に取り組みつつあるが、PRSP に付随して導入される外生的制度が彼らがもともと持つ内生的制度と軋轢を起こしたり、またその両者の改革、導入という大きな負担が同諸国の「改革実行能力」を超えてしまい改革自体が頓挫する、という事態が散見されており、行財政制度改革のあり方が厳しく問われる環境になりつつある。

日本としても同諸国の「自立的発展」、「援助からの卒業」を目指すのであれば、この分野の重要性を再認識し、また他のドナーが抱えている現在の課題に真摯に向き合い、そこから将来のための教訓を得ていく必要がある。また、行財政制度を援助供給側の論理だけで捉えることをせずに、また PFM というキーワードを茫漠としたイメージを持って一人歩きさせることなく、その実態と変容を着実に見つめ直して、日本自らの援助実務の実態に照らした現実的な視点からこのテーマに対する適切なアプローチを整理、確立していくことが必要となっている。

(3) 現在の課題

日本の援助実施機関もここ数年減少を続けた同諸国向け支援を増額すると同時に援助の質の向上にも取り組む意向であり、また PFM 支援黎明期におけるいくつかの調査、支援も始まりつつある中で、上記課題に対応する潜在的ニーズが高まりつつあると言える。しかし、いまだ国内援助コミュニティにおいても途上国における財政管理をテーマとしたセミナー、論文発表等の活動を継続的にしている例は存在せず、上記認識に基づく調査研究、コンサルティングの例は非常に少ない。また、そもそも、同テーマに関する有機的な組織的・人的ネッ

トワークも少なく、援助コミュニティが PFM に関する知的資産に有機的・効率的にアクセスできる状況にはなっていない。この状況に対応するために GRIPS 開発フォーラムにおいて上記の問題意識に基づき、これら分野の支援・調査経験が豊富な人材から知見を提供してもらい、それらを有機的に連関させていくことで、今後の我が国の同テーマに対するアプローチへの示唆を導き出していくことと致したい。

2. 目的

- ・ サブサハラ・アフリカの文脈において PFM の重要性と実態を捉えなおし、日本も含む援助機関の適切な関与アプローチに対する示唆を導き出す。
- ・ PFM 分野における途上国の潜在的ニーズと我が国の潜在的な優位性を明らかにして、それらをマッチングさせる可能性を探る。また長期的には財政制度改革支援を行える人材の発掘、整備等も目指す。
- ・ 世界各国及び日本国内で蓄積しつつある PFM 改革の経験を集積し、PFM 分野における経験の蓄積、効率的なアクセス、等が行える知的資産への効率的アクセスネットワークを構築する。
- ・ PFM というキーワードを一人歩きさせることなく、援助のスキーム・実務に即してその内容を翻訳し、援助実務への適切な吸収方法を探る。

3. 活動内容

(1) GRIPS におけるセミナー活動(不定期)

想定参加者、PFM 支援経験者のニーズを確認しつつ、上記の課題に沿うようなメッセージを抽出して、発信していく。予定セミナーは以下のとおり。

PFM 支援における『制度構築』と『業務改善(ロジスティックス)』 ~ 途上国政府の潜在的ニーズは何か？

セクター支援活動への PFM レビューの組み入れ方 ~ PFM はどのように援助実務に取り入れることができるのか？

ASEAN、ボツワナ、南アフリカの PFM 改革の歴史と他諸国への適用可能性 ~ PFM 支援の人材のありかはどこか？

英国における PFM ビジネスマーケット ~ PFM 支援の主要役達は誰か？

日本の地方行政改革の現状と PFM 人材マーケット ~ 身近な教訓から学ぶ

- ・ セミナー参加者人数は約 20~30 名。想定参加者は、外務省、財務省、JICA、JBIC、PFM 専門家、JICA 企画調査員経験者、経営・業務コンサルティング会社等。実務者ニーズと乖離したセミナー内容にならないように、事前にまたセミナー直後に、参加者からセミナーへのニーズをヒアリングし、次回以降のセミナーで適宜機動的に対応する。

(2) 論文

セミナー活動を通じてメッセージが体系的に集積され、まとめて一つの効果的な提言内容になるようであれば、それらのメッセージを集約した Discussion Paper を作成し、政策決定者や援助実務者に提示できるような準備を進める。